

ひまわり新聞 7



Sunflower Wedding

福島県主催の「ふくしまからはじめよう。情熱大賞」を受賞した「情熱の結婚 フラワーディング」は二〇一四年八月十五日、「絆のひまわり」を栽培している福島県大越町の牧野地区で行われました。

同地区で毎年恒例となっているひまわりフェスティバル内のイベントの一環で、地区の皆さんだけでなく福島県内の皆さんや全国の里親さんも駆け付けて、二組のカップルの結婚を祝いました。

式を挙げたのは、鈴木夫妻と石井夫妻。この日のために、結婚式場となるひまわり畑で、ひまわりの種まきから、苗植え、栽培と、二人の「初めての共同作業」を続けてきました。結婚式は、村（地元の地域）に伝わる伝統的な挙式で執り行われました。

まずは、チームふくしまのメンバーが長持ちの担ぎ手となり、新郎新婦が入場。仲人である「ご指南様」は、大越町牧野ひまわり会の会長、佐久間さんご夫妻が務め、二組の新婚さんへ温かいエールを送りました。

BGMも特別で、すべて生歌。歌手の「Breathing BUDS (ブリージング・バズ)」がアカペラコーラスで盛り上げてくれました。新郎、新婦が誓いの言葉を交わした後は、柏屋の紅白まんじゅうでファーストバイト。福島ならではの式が進みます。

もちろん、ブーケ・トスは、ひまわりの花束で。みんなに幸せのおすそ分けです。

この日、昨年も参加したガールスカウト千葉県北総地区の皆さんをはじめ、長野県飯綱町立飯綱中学校の生徒さん、福岡県の筑紫女学園大学の学生さんも参加し、地元福島の大学生ひまわりボランティアの皆さんと交流を深めました。

最後に「二組の幸せが末永く続きますように」と願いを込めた全長95メートルの巨大流しそうめんを参加者全員で味わい、幸せにあふれたひと時を過ごしました。

応援メッセージ



メルマガ登録



空メール送信で登録できます

NPO法人 チームふくしま
福島ひまわり里親プロジェクト

TEL.024-529-5153 HP:<http://www.sunflower-fukushima.com/>

Sunflower Wedding

2014年8月15日 挙式

福島県主催「ふくしまからはじめよう。情熱大賞」受賞
「情熱の結婚 フラワーウェディング」

三万本の『きずな』のひまわり畑のなかで開催

NPO法人チームふくしま 理事 堀内 孝勇

二〇一四年八月十五日、大越町でひまわり結婚式が行われました。当日の天気予報は、あいにく雨。少し心配していましたが、式時間が近づくにつれて、雲間に青空が顔を出してくれました。この日を待ち望んだ二組のカップル、参列者、準備を進める方々の日頃の行いが、天に届いたのかもしれない。

会場は、ひまわりが咲き誇る畑に囲まれた野外の特設会場。周りを見渡すと、青い空、緑の山々が広がる自然豊かな光景が広がっています。

赤いカーペットの上を長持唄に合わせて二組のカップルが登場すると、参列した地元の方々、県内外の方々から祝福の声がかげられました。カップルはもちろん、参列した方々の誰もが笑顔で、幸せにあふれた光景はとも美しかったです。誓いのキス、饅頭によるファーストバイト、ひまわりのブーケ・トストと、大いに盛り上がりました。自然の中での笑顔あふれる手作りの結婚式は、参加した誰にとっても、特別な結婚式になりました。

自ら種を植え会場作り
新しい一歩を皆で祝福

NPO法人チームふくしま
理事 本名創

福島県郡山市の中心部から東へ車で三十分ほど走ると、周りは自然でいっぱいになります。この町の名前は「大越町」。人口五千五百人ほどの静かな町です。

平成二十六年八月十五日、この場所に多くの人が駆けつけました。遠くは九州の福岡から、そして地元福島からも、見渡す限りのひまわり畑の真ん中で、鈴木夫妻、石井夫妻二組の結婚を祝福するためです。

この二組のカップルは、ひまわりの種を植えるという形で、自分たちの結婚式の会場を作りました。自分たちの植えたひまわりに囲まれ、全国から集まった皆さんに祝福され、とても

素敵な結婚式になりました。結婚式はもちろん、地元・大越町伝統の挙式の仕方を交えながら行いました。長持唄に合わせて両新郎新婦が入場。壇上に上がってからは、プロミュージシャンのBreathing BUDS(ブリージングバズ)さんの歌が式を盛り上げてくれました。

こんなにも、会場全体が新しい一歩を踏み出そうとする二人を祝福しようという空気に包まれる結婚式もなかなか出会えないと思います。ひまわり里親プロジェクトを通して、多くの人に出会い、共に歡ぶことの幸せを心から感謝します。

もともとこの日は大越町の夏祭り。夕方からの盆踊りも、参加者全員を最高に幸せな気持ちで包み込みました。平成二十七年も八月十五日には大越町で幸せが生まれます。一緒に歓びの時間を過ごしませんか？ 大越町で会いましょう！





広島県広島市に隣接する海田町で二〇一四年七月十六日、八千本の町花ひまわりと、二百人の地域の皆さんに見守られ、ひまわりの里親の渋谷晋太郎さん、美恵さん夫妻（尾道市在住）のひまわり

渋谷晋太郎さん 美恵さん結婚式

会長の夢を実現 温かい雰囲気結婚式

「海田町ひまわりの会」会長を長年務めてきた田原利春さん（享年77）。当プロジェクトを通じて、田原会長の「ひまわり畑で結婚式をプロデュース」という夢が広島県の渋谷夫妻、海田町の皆さんによって2014年7月に実現されました。
（田原会長の追悼記事は12ページ）

結婚式が行われました。「海田町ひまわりの会」の中心となり、活動を続けてきた故・田原利春会長（享年77）の遺志であり、また夢であった「ひまわり畑での結婚式をプロデュースする」という思いを実現しようと、たくさんの方が参加して執り行われました。

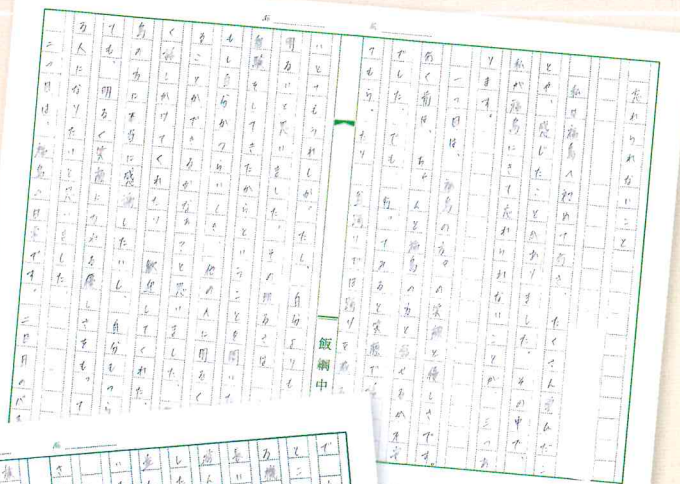
当日は、ひまわりの会のメンバーや住民による手品やアコーディオン、歌が披露されました。会場は地元ならではの温かい雰囲気に包ま



福島ひまわり里親プロジェクトと連携して、地域の輪と絆をつなぎ、福島へエールを送り続けた歴史は、これからも未来の子どもたちへ語り継がれていくことと思えます。

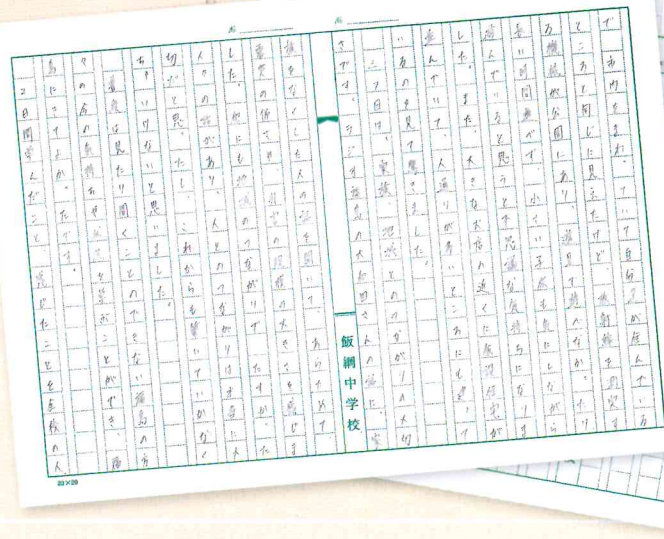
れ、参加者は新郎、新婦を祝福するとともに、地域を明るくしているひまわり畑の世話を続けてきた故・田原会長をしのび、その取り組みへの感謝の思いを新たにしました。海田町ひまわりの会は二〇一四年十一月二十七日をもって、二十年にわたる活動に幕を閉じました。

福島を訪問し、現地の方へ話を聞き「自分も誰かのために役に立ちたい」と思ったことなど、気づきと感想が手紙の中に書かれています。



福島を訪問した
長野県の生徒さんから
お手紙が届きました

サンフラワーウェディングに参加した長野県飯綱町立飯綱中学校の生徒の皆さんは、2日間をかけて、福島の現状をめぐるツアーにも参加しました。



F u k u s h i m a s u n f l o w e r m a p

ふくしま ひまわりマップ

福島県内からも
たくさんの方にご参加
いただきました!



全国各地でたくさんの方がご参加くださいました。里親のみなさんに心から感謝申し上げます。

(写真を頂いた方、福島に来られた方の一部を掲載しています)

メルセデス・ベンツ コネクション (東京) /メルセデス ミーに 開花したひまわりが展示されました。

東京都のメルセデス・ベンツ日本は2014年より里親としてプロジェクトに参加し、実際にひまわりを栽培してくださいました。

8月、開花したひまわりは東京・六本木にあるブランド情報発信拠点「メルセデス・ベンツ コネクション (東京)」ならびに「メルセデス ミー」にて展示されました。

展示場では、ひまわりだけでなくプロジェクトの解説看板やメルセデス・ベンツ日本とプロジェクトの関わりについて掲示



してくださいました。
メルセデス・ベンツ日本の関係者の皆様、
ありがとうございます。



長野県



富山県



山形県



東京都



岡山県



京都府



広島県



島根県



大分県



三重県



神奈川県



愛知県



(敬称略)

ひまわり甲子園地方大会

震災があったからこそ全国で、福島で生まれた感動物語

福島ひまわり里親プロジェクトの活動を通して生まれた感動の物語のプレゼンテーション大会、「ひまわり甲子園」の地方大会が中国・四国、信州・北陸、関西の三地方で開催され、各地方大会の感想が寄せられました。

ひまわり甲子園中国四国大会を終えて

話すことで考えや気持ちが整理されました

NPO法人チームふくしま 監事 大和田 勲

二〇一四年八月六日、広島
の原爆記念の日に大会が開かれ、その中で講話をさせていただきました。みなさん真剣に話を聞いてくださいました。震災と原発事故によって、私たちの生活がどのようになっていたのかという内容で、一見面白い内容ではなかったかもしれませんが、その時の状況を話すことによって、私自身の中で、考えや気持ちの整理されたような気がします。



震災の被害の状況は地域ごとに異なり、原発事故や津波など、受けた影響も全く異なります。そんな中で、原発事故で避難をした経験のある当事者の私の体験や思いを伝えることは、自分

震災から三年以上経った今でも、福島を離れて生活している人がいて、原発事故によって状況が変わってしまった人がいるという事を、少しは知ってもらう事が出来たのではないかと思います。私自身は、自分のことを誰にでも知ってほしいと思っっているわけではありません。ただ、福島を応援してください。里親の皆さんには話をしても良いのかなと思いました。福島といっても、東日本大

ることだと考えました。避難した人はたくさんいて、今もみな、それぞれの避難生活を送っていて、想いも行動も、人それぞれに違ってきます。十人いたら十人それぞれ、避難生活があります。私は、自分が経験したことを、自分なりの言葉で話をさせていただきました。感じ方、受け止め方は人それぞれだと思いますが、話を聞いて良かった、と思ってくれる人が一人でもいたらうれしいです。最後に、今回の講話を企画してください。中四国大会主催の渋谷さんをはじめ、関わっていただいた皆様に、感謝の気持ちでいっぱいです。そして、このひまわり甲子園が、これからのひまわりプロジェクトの活動を半歩でも一歩でも進めていくきっかけになっていけば、うれしいです。本当にありがとうございます。

広島県平和記念式典に参列『きずな』のひまわりを献花

2014年8月6日、ひまわり甲子園中国・四国地方大会の開会前に、広島県平和記念式典に参列し、『きずな』のひまわりを献花しました。

2012年から続けて3年目で、今回はプロジェクトのひまわりを育てた福島県伊達市の全6中学校の代表生徒12人とともに、公園内の慰霊碑にひまわりを捧げました。

広島、京都、岡山など各地の福島ひまわり里親の皆さんも参列し、平和への祈りと、福島、東北の復興を願いました。



活動の意味を再認識

山口県 光市立島田中学校

教諭 中原 雅史

二〇一四年八月六日は、山口県東部を大雨が襲い、電車が遅れるなど大変記憶に残る日でした。この日に発表させてもらったことを今でも覚えています。また、その後広島でも大きな土砂災害が起こるなど、この夏は災害が多い夏になりました。そうした中で、震災から立ち上がるうとする「福島ひまわり里親プロジェクト」

中四国大会が開かれたことは、大変意味のある活動だということを再認識しました。

『絆の輪』 どンドン広がる

晴れの国 発!

福島ひまわりプロジェクト

萩原 潤彦

今回の中四国大会の大成功、おめでとうございます。振り返ると、今回の三月に開かれたひまわり甲子園の後、半田君の『むちゃぶり』がどンドン広がる『絆の輪』を見て、渋谷君に「これだけ、中国から福島への流れがあるので、八月六日という意義深い日に中国メンバーで何かできれば良いですね。皆で集まろうや」とほとんど『むちゃぶり』をしました。

を通して、ひまわり中国大会が平和の絆となればいいとの思いでしたが、その答えを大きな大輪で実現させて頂きました。「たくさんの感謝に、今度は我々が応えないといけない」と感じました。

つたない発表でしたが、中四国を代表する発表を見て、岡山でも思いのこもったひまわりで一杯にしたいと思います。

何が起きても立ち上げられる

NPO法人チームふくしま
理事 折笠 哲也

今大会でも発表して頂いた里親さんから、ひまわりの種を収穫するため長い時間と数多くのご苦労があったとお聞きしました。でも、そのお陰で気づいたことや素晴らしい人との出会いがたくさんあったそうです。

「自分のためなら諦めたくならないこと、誰かのためにならできる」
そんな優しさと強さを持った日本人であることに誇りを感じました。

災害は、人の力ではどうしようもありません。でも、きつと次に日本のどこかで災害が起こったとしても、助け合える仲間がいる日本は、何が起きても立ち上げられると確信しました。

中国、四国の里親のみならず、素晴らしい発表を本場にありがとうございます。



30kgのひまわりの種に会場騒然

ひまわり甲子園 信州・北陸大会(二〇一四年十一月三日 開催)

信州・北陸地区実行委員長 山田 雅彦

二〇一四年十一月三日にひまわり甲子園信州・北陸大会が、長野市内で行われました。

三団体から、活動報告があり、また、今年福島に行った中学生のみなさんによる体験発表がありました。

当日は、実際に収穫したひまわりの種の贈呈式も行いました。

なかには、30kg以上の種を

持ってきてくれた学校もあり、騒然となる場面もありました。最後に「ひまわりの歌」をみんなで歌いましたが、参加者が自然にお互いの肩を組んだり、手をつないで歌い始めました。その姿に、この会の意義を改めて感じ取れました。

「福島への仲間を想う」皆様に触れ、少しずつでも続けていく大切さを感じるこ

思い、願いを忘れず伝え続ける

ひまわり甲子園 関西地区大会(二〇一四年十一月二十四日 開催)

関西地区実行委員長 小嶋 道範

ひまわり甲子園関西大会を開催させていただくにあたり、発表者の皆様、当日お越しいただいた皆様、事務局の皆様、そして素晴らしい場所を提供くださいました、ウエダ本社の岡村社長はじめ社員の皆様などのご尽力により、盛大に開催されましたこと、心より感謝申し上げます。

震災直後の二〇一一年五月、いわき市の海辺の変わり果てた地で、瓦礫の中から想い出の品を探されてい

たお婆さんが私に仰った言葉... 「この出来事、こんな思いをしている東北人がいることを忘れないでほしい...」 「そんな思い、願いを京都に帰っても伝え続けてほしい...」

「忘れないでほしい...」
それが私達がこの活動を続けさせて頂いている原点です。

今回の関西大会を通じて、あの「お婆さん」の言葉をかみしめながら、プロ

とが出来ました。皆様のお力をお借りしながら会を開催し、また成功裏に閉じることが出来たことに深く感謝しております。



プロジェクトの理念である「You For Japan」が体現されたことを、大変有り難く感じています。

今後もより一層、関西からも盛り上げてさせていただきますので、宜しくお願ひ申し上げます。



リズムを合わせて元気な踊りを披露

二〇一四年八月一日、暑い福島恒例の夏祭り「わらじまつり」に参加しました。わらじまつりは、巨大なわらじを担いで市内を練り歩き、地元で古くから伝わるお祭りです。特に夜の部の、福島駅前の国道の一部を車両通行止めにし、全面で開催するわらじ踊り「ダンシングそく」



「だナイト」は、福島の方で「踊らない」との意味をかけたダンスで、祭りは最高潮に達します。

今回は参加チームの中でもひととき黄色の目立つ「ひまわりスタイル」で、猪苗代養護学校の有志メンバーがチーム参加しました。麦わらハットに、ひまわりプロジェクトのTシャツ。両手にひまわりの花を掲げて、元気あふれる踊りは、沿道の市民の注目を集めました。同校は、震災以前から連続十年出場する常連です。原校長はじめ、職員や生徒、保護者、さらには卒業生のみなさんもそれぞれの思いを込めて、震災後三年ぶりに踊りました。

理事や事務局スタッフも飛び入り初参加。最初は振り付けなどに不安がりましたが、さすが、体育教師として原校長が自ら考案した振り付けの

良さのおかげで、みんなが徐々に慣れ、リズムを合わせて元気な踊りを披露しました。九十分間の演技に、地元の知人の応援や歓声が加わり、メインステージでは、ひまわりプロジェクト説明など交えたチームのエピソードや復興支援活動を語る場面も。広く、多くの方々に福島と全国の「ひまわりの絆」を伝えることができました。踊り終わった後のみんなの微笑ましい姿は、まさに夜に浮かび上がるひまわりのよう。全員が楽しい時間を共に過ごすことができました。

さらなる復興となる今年二〇一五年も、福島のみならず、全国各地の皆様のご参加をお待ちしております。福島のみなさんもそれぞれの思いを込めて、震災後三年ぶりに踊りました。

その日を楽しみにしています。素晴らしい出会いとご縁に改めて感謝いたします。
(NPO法人チームふくしま 理事 佐藤 博章)

京都府の小学校での講演会

2014年6月20日、京都府で里親さんとして活動してくれている長岡京市立長岡第四小学校で、「福島ひまわり里親プロジェクト」の講演会が開かれました。

当日までに学校では、全校集会や授業で、校長先生、担任の先生方が子どもたちに震災や復興支援、福島を考え、理解を深めるきっかけをつくってくれていました。十分な事前学習の成果もあり、子どもたちはみな真剣な眼差しです。出席した理事も驚きました。

講演会には全校生徒が参加。これまで学んできたことをさらに深め、自らの想いや意見を発信するなど、参加者全員が子どもたちの心の芽がはぐくまれていた瞬間を体験しました。

長岡京市立長岡第四小学校の皆さま、ありがとうございます。

講演会についてのお問い合わせは福島ひまわり里親プロジェクト事務局まで。(表紙)

東日本大震災の教訓を生かした 広島土砂災害での被災者支援

福島ひまわり里親プロジェクトを応援する会

洪谷 晋太郎

現地レポート

二〇一四年八月二十日、広島県広島市で豪雨による土砂災害が発生し、被災された方々は慣れない避難所生活を強いられることとなりました。

災害発生から三日後、広島県は、東日本大震災の際に問題となった「生活不活

発病」(「動かない」ことで「生活が不活発」となり「動けなく」なる状態)を予防すべく、避難所でのリハビリ支援を開始しました。避難所には、高齢者や車いすの方もおられて、生活上の困りごとの傾聴、身体的な不調に対するリハビリ相談、生活不活発病予防を目的とした集団リハビリ(リ

ハビリ体操、屋外の散歩)を実施させてもらいました。避難所には、食料品や衣料品などの生活用品だけでなく、避難者の病気や生活機能低下の予防につながる段階ボール製簡易ベッドの導入もされ、東日本大震災の教訓を活かした災害支援がなされていると感じました。

今回、全国の福島ひまわり里親プロジェクトの里親のみなさんからも義援金を届けていただきました。本当にありがとうございます。

広島土砂災害 募金の活用報告

全国の皆様よりお寄せ頂きました想いのこもった義援金は、二回に分けて広島

の被災地へお届けいたしました。

まず一回目は広島市東区にある中山児童館の子どもたちに寄付をしました。同館からリクエストを受け、子どもたちの玩具を寄贈しました。さらに二〇一四年十月四日には、同館の文化祭にて、全国各地でご活躍

している「スマイルファミリーQちゃん」というスベシャルゲストを招待。Qちゃんは、楽しいパフォーマンスで、子どもたちに元気と笑顔を届けてくれました。

二回目は、広島県尾道市在住の里親様であり、二〇一四年八月六日に開催されたひまわり甲子園中四国大会の代表をしてくださった渋谷様へ、残りの義援金をお振り込みしました。

土砂災害のあった後も、被災を受けられた方の身近におられ、支援をして

広島のために想いや義援金を寄せてくださいました皆様、広島まで駆けつけてくださいましたスマイルファミリーQちゃん、その想いを繋いでくださった渋谷様。改めて皆様にお礼申し上げます。誠にありがとうございました。



2014年夏、フジテレビと福島ひまわり里親プロジェクトが連携して行なってきた「東北復興プロジェクト」により、お台場新大陸に3000本以上のひまわりが大輪の花を咲かせました。

8月26日、私たちは、日頃よりひまわりの種の包装をお願いしているNPO法人和の作業所のみなさん40人と、東京のフジテレビ「お台場新大陸」へ行ってきました。

目的はひとつ！

以前より交流のある、あの「ひまわり」の歌を作ってくれた福井県鯖江市立立待小学校の70名のみなさんと一緒に、お台場のステージから、歌を届ける機会を頂いたからです。



フジテレビ お台場新大陸に 参加して

NPO 法人チームふくしま
理事 吉成 洋拍

「ひまわりの歌を1人でも多くの人に届けて元気になってもらいたい」。そんな思いを胸に、総勢110名の合唱団で歌ってきました。初めて福井県の小学生と福島県の仲間が直接東京で出会い、1つの曲を心ひとつに歌う瞬間。これ以上の感動があるでしょうか。この様子は、その日の夕方の全国放送（FNNスーパーニュース）でも放送され、たくさんの笑顔というひまわりの花になって多くのみなさんの心に咲きました。

またプロジェクトに新しい歴史が刻まれた素敵な1日でした。

→
福島民友新聞
2014.7.29(火)
掲載



「ひまわり迷路」登場

全国各地の新聞に、プロジェクトの活動を取り上げていただきました。いくつかを抜粋してご紹介します。

本県の魅力発信

飛騨デザイン・パンフレット出版

オゾン層破壊防止 公認サービサー
「ひまわり」の魅力を発信するパンフレットが、本県の魅力を発信する「飛騨デザイン・パンフレット」の一冊として、7月29日（火）に出版された。このパンフレットは、飛騨デザイン・パンフレット編集委員会が編集し、飛騨デザイン・パンフレット出版が出版した。このパンフレットは、飛騨デザイン・パンフレット編集委員会が編集し、飛騨デザイン・パンフレット出版が出版した。

猪苗代ハーブ園

「ひまわり迷路」の登場

猪苗代ハーブ園の「ひまわり迷路」が、全国的に注目を集めている。この「ひまわり迷路」は、猪苗代ハーブ園が主催する「ひまわり迷路」の一角を占めている。この「ひまわり迷路」は、猪苗代ハーブ園が主催する「ひまわり迷路」の一角を占めている。

←福島民報
2014.6.17(火) 掲載

ヒマワリ満開 4千本 三光

中津市三光町の田舎を歩いている。約4000本のヒマワリが、一面を黄色く染め上げていた。この「ヒマワリ満開」は、中津市三光町の田舎を歩いている。約4000本のヒマワリが、一面を黄色く染め上げていた。

ヒマワリ 600本満開

赤磐商工会館山文所が栽培

赤磐商工会館山文所が栽培したヒマワリが、600本満開を迎えている。この「ヒマワリ 600本満開」は、赤磐商工会館山文所が栽培したヒマワリが、600本満開を迎えている。

福島にヒマワリ 中川さんらの絵本

スマホアプリ版完成

福島にヒマワリ 中川さんらの絵本が、スマホアプリ版として完成した。この「福島にヒマワリ 中川さんらの絵本」は、中川さんらの絵本が、スマホアプリ版として完成した。

福島教訓に防災教育

現地NPO招き講演会

福島教訓に防災教育。現地NPOを招き講演会を開催した。この「福島教訓に防災教育」は、現地NPOを招き講演会を開催した。

↑中京新聞 2014.12.16(火) 掲載

「たびくまとひまわりばたけ」の制作者でおなじみ、なかがわ創作絵本教室中川たかこ先生による「絵本の読み聞かせのポイント」がYouTubeに登場しました！

なかがわ創作絵本教室
中川先生の絵本読み聞かせ映像

◆ Youtube URL
http://youtu.be/mADIfMdRHhg?list=UU2Dfq_JCyclaxTD-b24U3g

福島ひまわり里親プロジェクトの将来ビジョン “For You For Japan”

会長 鈴木 厚志



現在、福島ひまわり里親プロジェクトは、For You For Japanという理念のもとに活動しています。これは、「あなた（相手）のために種を育てて、送るという行動は、将来の日本のためになる」という考え方で、自分の為になんかをするのではなく、誰かのために行動することは、我慢をして自立を生み出し、思いやりを育みます。古き良き日本人とは、この自立と思いやりがある人のことを言います。

プロジェクトには現在、全国各地から、子供たちを中心に毎年1万人の方が参加してくれています（累計参加人口10万人）。

私たちは、何か大きいことを派手

にやりたいわけではありません。「海外に学校を建てる」といった事業もありますが、ハードをつくって終わりではなく、教育というソフトを作り、一緒に活動していると考えています。

人を育てるプロジェクトですから、その成果が出てくるのは、10年後、20年後です。しかも成果とは、「自分のためでなく、誰かのために行動することは当たり前」という世の中を実現することです。その成果を手にするのは我々ではなく、日本であり、日本人です。

例えば、ある5人家族がいるとします。もしもこの家族が、それぞれ自分自身の幸せだけを願っていたな

らば、自分の幸せを願うのは1人だけです。

別の5人家族がいました。この家族は、自分以外の人の幸せを願っています。するとこれは、自分の幸せを願う人は、4人いるということになります。

さあ、みなさんは、どちらの家族、どちらの世の中を実現したいですか？

我々、福島ひまわり里親プロジェクトは、後者の世の中をつくらせたいと考えています。

そして、それこそが、我々が10年後、20年後に引き起こしたいビジョンなのです。

学校教育機関限定 教育教材のご案内



プロジェクトでは、学校の授業に役立てて頂こうと教員・生徒向け教育教材セットを開発し、販売を開始いたしました。

授業にそのまま使える福島の現状とプロジェクト概要を紹介するパワーポイントデータ（小中学校向け）や、理事のインタビュー小冊子、震災後の福島であった感動エピソードが詰まったDVDなど道徳、防災教育に役立てていただける内容となっています。

詳細のお問い合わせ、お申し込みは

024-529-5153

福島ひまわり里親プロジェクト事務局まで。

追悼

さようなら、そしてありがとう 田原会長

福島ひまわり里親プロジェクトを応援する会 渋谷 晋太郎

海田町ひまわりの会の会長を長年務めてこられた田原利春さんが二〇一四年八月三十一日に永眠されました。田原会長の長年の夢は「ひまわり畑で結婚式をプロデュースしたい」というものでした。

二〇一三年八月にNPO法人チームふくしま半田真仁理事長が「同じ人となら何度結婚式を挙げてもいい」と話し



年に入り、体調がすぐれないなかでも命をかけて

た田原会長。心からご冥福をお祈りいたします。

たことをきっかけに、田原会長は一念発起。二〇一四年のひまわりを育てられ、満開のひまわり畑を舞台に、福島ひまわり里親プロジェクトを通じて出会った渋谷夫妻の結婚式をプロデュース。その後、永遠の旅路につかれました。ご葬儀では、ひまわりで繋がった地域の方々や仲間達が見送りました。最期まで人のために尽くされた田原会長。心からご冥福をお祈りいたします。